

日光川公園 管理運営方針

パークマネジメントプラン

◆公園の特性を生かした公園経営の推進◆

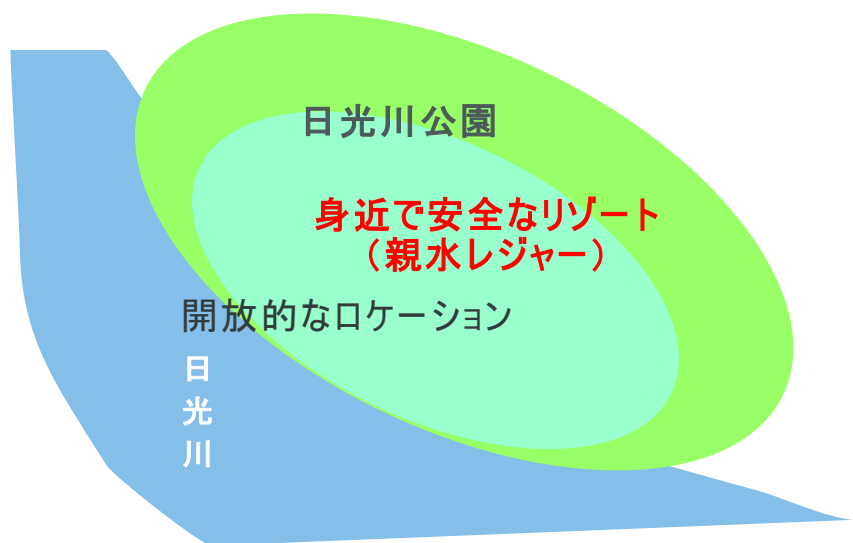
平成 26 年 8 月

名古屋市緑政土木局

日光川公園のめざす公園像

身近で安全なリゾート施設として、誰もが気軽に利用できる公園

- ・ 誰もが安心して、余暇を楽しめる公園
- ・ プール開園中は、多くの来園者が楽しむことにより大きな「にぎわい」が生まれる公園
- ・ 催事での利活用や、協賛、アイデア・提案により利活用に参画できる公園



目次

基本事項	1
1.公園の概要	
1-1.日光川公園の概要	2
(1)概要	2
(2)行政計画上の位置づけおよび指定等	4
1-2.沿革	7
1-3.立地環境	8
(1)自然状況	8
(2)周辺状況	9
1-4.整備時の方針および内容	10
(1)整備当初の基本方針	10
1-5.施設状況	12
(1)施設概要	12
(2)利用時間および料金	14
(3)景観	14
1-6.利用状況	15
(1)プール施設の利用	15
(2)プール営業期間中の取り組み	15
(3)休園期間中の利用	16
(4)利用者アンケート結果	17
(5)利用・運営上の課題	18
(6)協働	19
1-7.公園の基本的な性格・役割	20
(1)特長の分析	20
(2)公園経営の視点から見た現況評価	21
2.めざすべき姿と取り組みの方針	
2-1.公園がめざすべき姿	22
(1)めざす公園像	22
(2)日光川公園のイメージ	22
2-2.取り組みの方針	23
(1)公園経営の目標設定	23
(2)シーズン別利用特性	24
(3)維持管理の方針	24
(4)景観形成の方針	24
(5)運営管理の方針	25
(6)連携・協働の方針	25
(7)改修・再整備の方針	25
(8)災害対応の方針	25

公園管理運営方針 基本事項

公園管理運営方針（パークマネジメントプラン）は、平成 24 年 6 月に公表された「公園経営基本方針」及び、平成 25 年 7 月に公表された「公園経営事業展開プラン」に基づき、今後 10 年程度を計画期間として公園の管理運営の方針等を定めるものです。

この方針では、日光川公園の性格、役割、立地条件や公園としてのあゆみ、利用者の動向などを踏まえて、日光川公園がプールとして存続している期間についてのめざす公園像を設定し、その実現にあたっての取り組みの方針を定めました。

管理者、利用者、事業者等は、このプランで示す各方針に即して、本公園における管理運営や利活用の促進を、それぞれの立場で行っていくものとします。

なお、本方針については、マネジメントサイクルで行う評価の結果や、周辺の都市基盤整備状況、技術動向、財政見通しなど社会経済情勢の変化等により対応が必要となった場合には、適宜見直しを行っていくものとします。

「名古屋市の公園経営」とは…

従来の行政主導による維持管理中心の公園管理から脱却し、利用者志向、規制緩和等による市民・事業者の参画の拡大、多様な資金調達とサービスへの還元、経営改善手法の導入など、公園の利活用の発想により公園の経営資源を最大限に活用していく新たな管理運営の考え方です。

名古屋市においては、市民ニーズを考慮した公園経営を第一とし、公園を「市民の資産」としてとらえ、多くの人々の関わりの中で、市民全体が公園経営の成果を享受できるように「管理する資産」から「経営する資産」へと公園の管理運営のあり方を大きく変革していくものです。

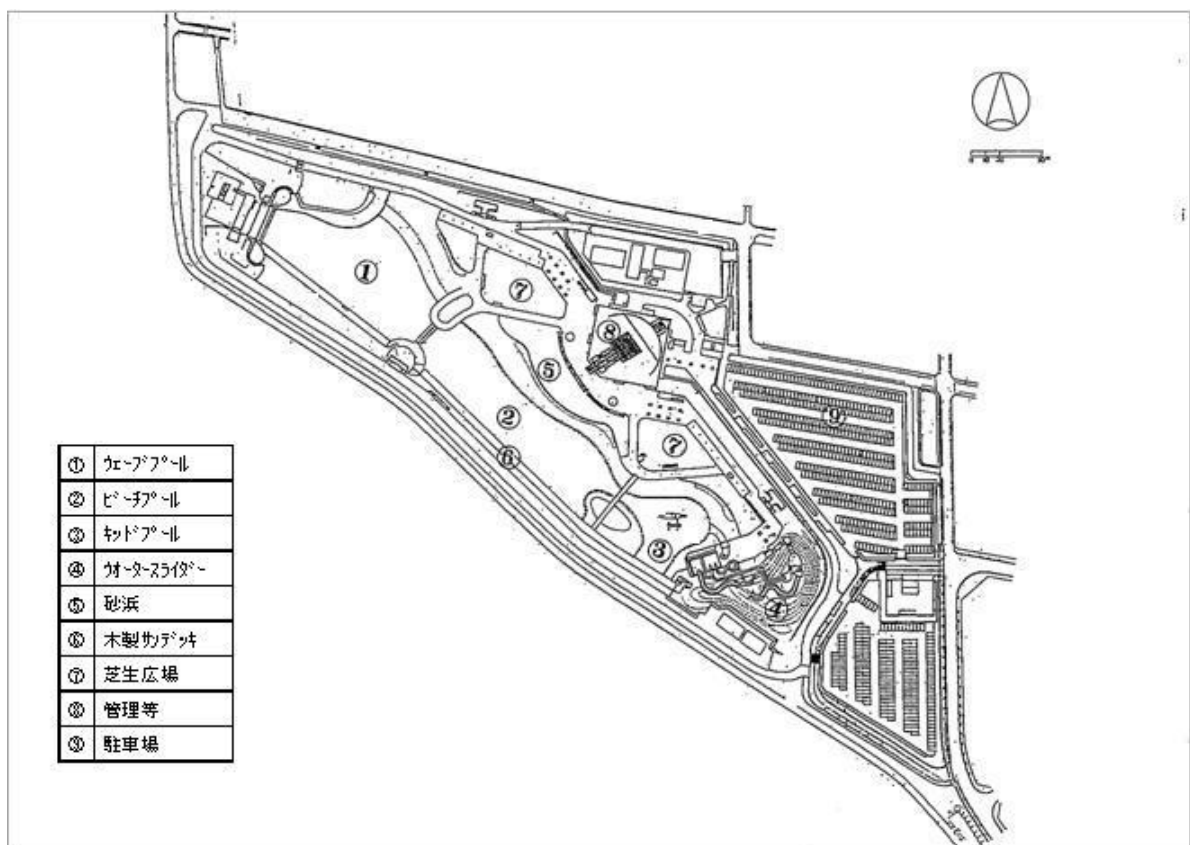


1.公園の概要

1-1.日光川公園の概要

(1)概要

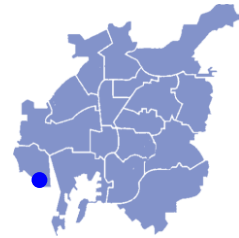
開園年度	平成 6 年
都市公園法による設置	平成 6 年 6 月 25 日
公園面積	11.52ha
所在地	名古屋市港区藤前五丁目、南陽町大字藤前新田地内
公園種別	運動公園
都市計画決定	年度 昭和 33 年 2 月 15 日
	番号 5・5・6 号（総合公園）
	面積 10.5ha



日光川公園平面図

【位置】

日光川公園は、名古屋市南西部、都心から約 9km に位置する。



位置図

【交通】

市バス（東海 12 系統）「サンビーチ日光川」

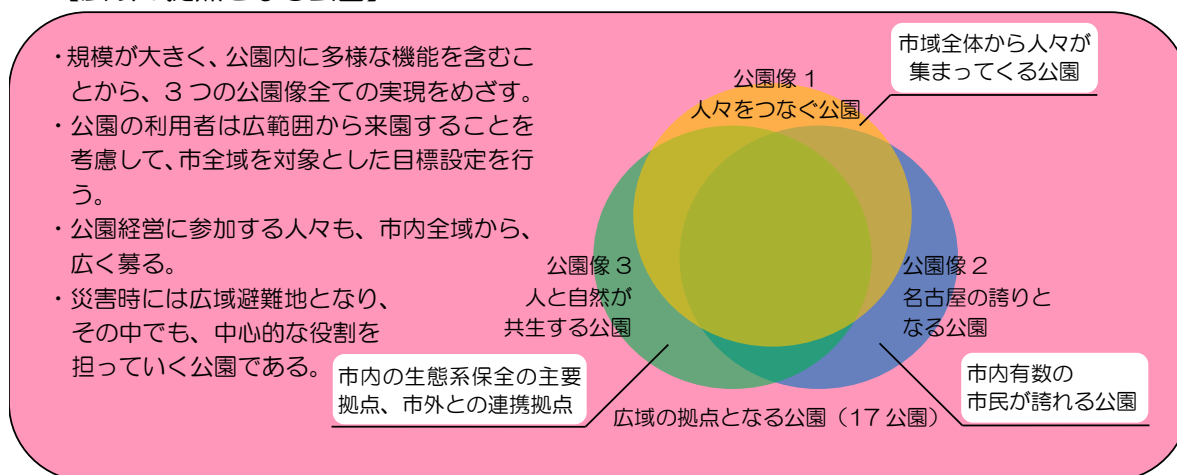
三重交通バス 「サンビーチ日光川」

(2) 行政計画上の位置づけおよび指定等

■ 広域の拠点となる公園

事業展開プランの中で、公園の面積規模や公園利用者の広がり considering 3つに分類された公園体系のうち、「広域の拠点となる公園」として位置づけられている。「広域の拠点となる公園」（市内 17 公園）とは、規模が大きく、広範囲（市内及び市外）の利用者が見込まれる総合公園、運動公園、特殊公園を指している。

【広域の拠点となる公園】



※名古屋市公園経営事業展開プラン（H25.7）

■広域避難場所

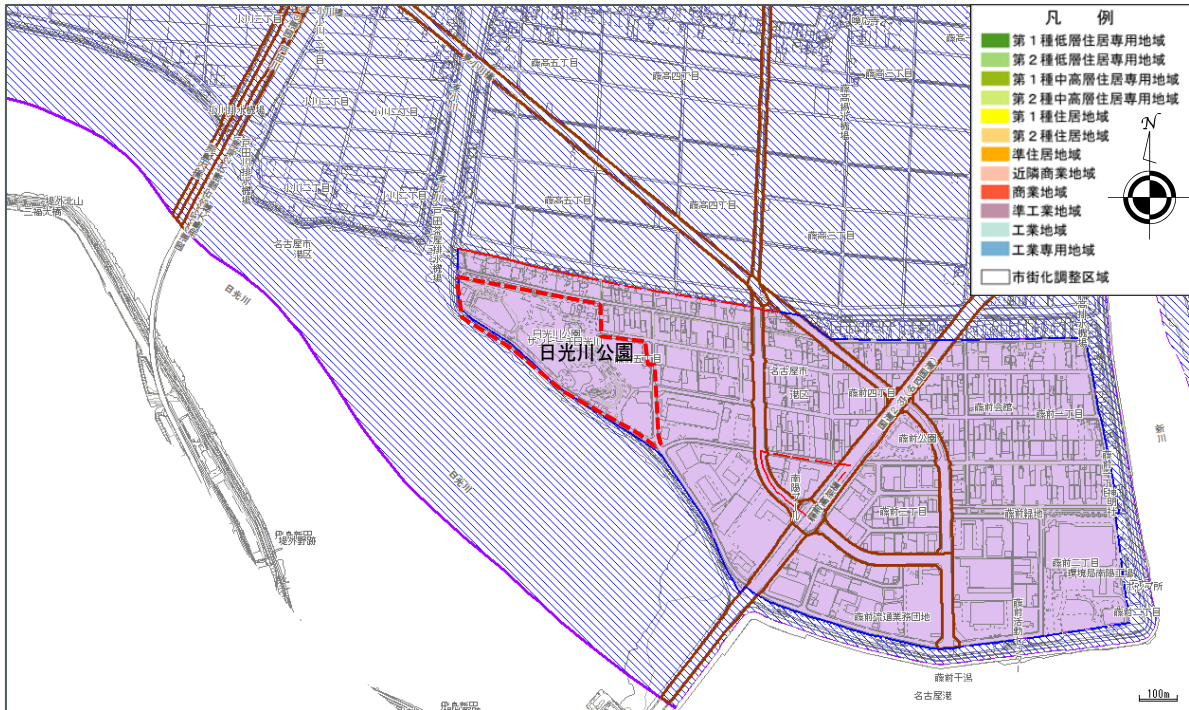
名古屋市地域防災計画の中で、日光川公園は、広域避難場所に指定されている。広域避難場所とは、主として地震火災が延焼拡大した場合に、周辺地域からの避難者を収容し、避難者の生命を保護するための場所である。



避難所マップ

■用途地域

広域都市間道路（名四国道）の流通物資のターミナル拠点として、市街化調整区域の端にスポット的に指定された準工業地域の中に位置している。



用途地域図

■河川区域・河川保全区域

公園の一部は日光川の河川保全区域内に含まれている。



河川区域および河川保全区域

1-2.沿革

昭和 33 年（1958 年）2 月	国道 23 号線両側に位置するように公園を都市計画決定
昭和 52 年（1977 年）9 月	名古屋市都市計画藤前流通業務団地事業の施工に伴い、現在の位置に変更
昭和 59 年（1984 年）1 月	公園基本計画（多目的広場計画案）作成
昭和 59 年（1984 年）8 月	藤前流通業務団地事業者（名古屋市長）から公園担当部局へ引き継がれる。（暫定的に運動広場として利用）
平成元年（1989 年）	公園基本計画（巨大プール施設のある公園計画案）策定 →平成 2 年（1990 年）3 月市議会です承される
平成 2 年（1990 年）	基本設計、一部実施設計の作成 都市計画事業認可
平成 3 年（1991 年） ～6 年（1994 年）	公園整備総事業費約 68 億円 (財源) 自治省：ふるさとづくり特別対策事業 建設省：都市公園事業補助、愛知県の任意補助
平成 6 年（1994 年）6 月 25 日	開園（初年度の入場者数は 111,998 人）
平成 18 年（2006 年）	指定管理者制度導入
～現在	夏期には国内最大規模を誇るプール公園として、市民に親しまれている。

1-3.立地環境

(1)自然状況

【地形】

日光川公園の敷地は、日光川と庄内川に挟まれた輪中地で、以前は海であったところを江戸時代末期に新田開発が行われ、低湿地農地として利用されてきたいわゆる「海拔ゼロメートル地帯」であった。昭和34年の伊勢湾台風や地下水の汲み上げ等の影響により地盤沈下が進行したため、海水の侵入等により農地利用に不向きになった。その後、水防性の向上のため昭和43年から49年に名古屋市都市廃棄物等の埋立てにより嵩上げされた。公園用地として盛土がされており、外周道路より平均して2m程度高い。敷地は全体的に平坦であるが、浚渫土の埋土により多少の起伏があり、整備前の地盤高は海拔3～5mであった。整備前は、大半が草地で一部を野球場として使用していた。埋立て後、40年程度経過しており、塩害やガスの発生の心配は無い。

【植生】

整備前の当地域の植生は、名古屋市既存植生図（昭和58年調査）によると、ススキ草原になっていた。日光川に隣接していることなどから、敷地内の水辺にはガマ、マコモ、ヨシなどの水辺植物が見受けられた。

当地における整備前の構成種としては、セイタカアワダチソウ、ススキ、ヌスビトハギ、アカザ、カゼクサ、ヨモギ、メヒシバ、コスモス、オナモミ、エノコログサ、イヌタデ、スズメガヤ、ホウキギク、ヒメムカシヨモギ、クサネム、オオクサキビ、ケイヌビエ、コセンダングサなどの多種類の雑草が繁茂している状況であった。

【生物】

当地で整備前の調査で観察された野鳥は、キジ、キジバト、シロチドリ、セキレイ、ヒバリ、スズメ等で、隣接する日光川では、カイツブリ、イソシギ、サギ類、マガモ、シロチドリ、カワウが観察された。

東へ2kmの庄内川河口部は、鳥獣保護区に指定されており、市内で観察される39科176種の野鳥のうち、22科72種の野鳥が観察され、日光川付近でも上記と同様の野鳥が観察できると考えられる。日光川公園も銃猟禁止区域に含まれている。

(2) 周辺状況

日光川公園は、名古屋市南西部、都心から約9kmに位置する。南側は日光川の河口左岸に面しており、雄大な景観を望むことができる。戸田川緑地や戸田川沿いの緑道とともに、帯状の外周緑地を形成し、その中で端部に位置する拠点緑地の役割を果たす。



周辺状況図



航空写真

1-4. 整備時の方針および内容

(1) 整備当初の基本方針

《平成元年度 日光川公園基本計画(名古屋市農政緑地局)》

1) 背景

臨海部の開発が進むにつれ、名古屋市内からも海岸線がなくなっていき、海水浴のできる海岸は知多半島(約 50km)まで行かなければならなかった。また、名古屋市には本格的なレジャープールがなかったため、大プールを造る機運が高まっていた。

2) テーマ

「白い砂浜の美しい海岸風景と健康的な日光の燦々と降り注ぐ巨大プール施設の創出」

広大な水面を持ち、今は遠くなった美しい海岸風景を広大な日光川河口域に重ね合わせ、市民が1日ゆったりと過ごせる親水レジャープール公園とする。

- 日本最大級の単一プールとして7,000人が一度に泳げるようにする。
- 自然材料を用い、自然要素の多い景観とする。ただし、管理便益棟などは対照的に人工的要素を表面に見せるようにする。
- ゆったりとした水面の中に海岸風景を取り入れ、四季の情景を創り出す。
- 日光川との一体化を図る。

3) 基本事項

スリルや面白さ目新しさなどの機能本位の施設づくりではなく、周年利用ができる都市公園として、日常的な生活空間とは別世界をつくり、1日または半日楽しめるレクリエーション空間を創出する。

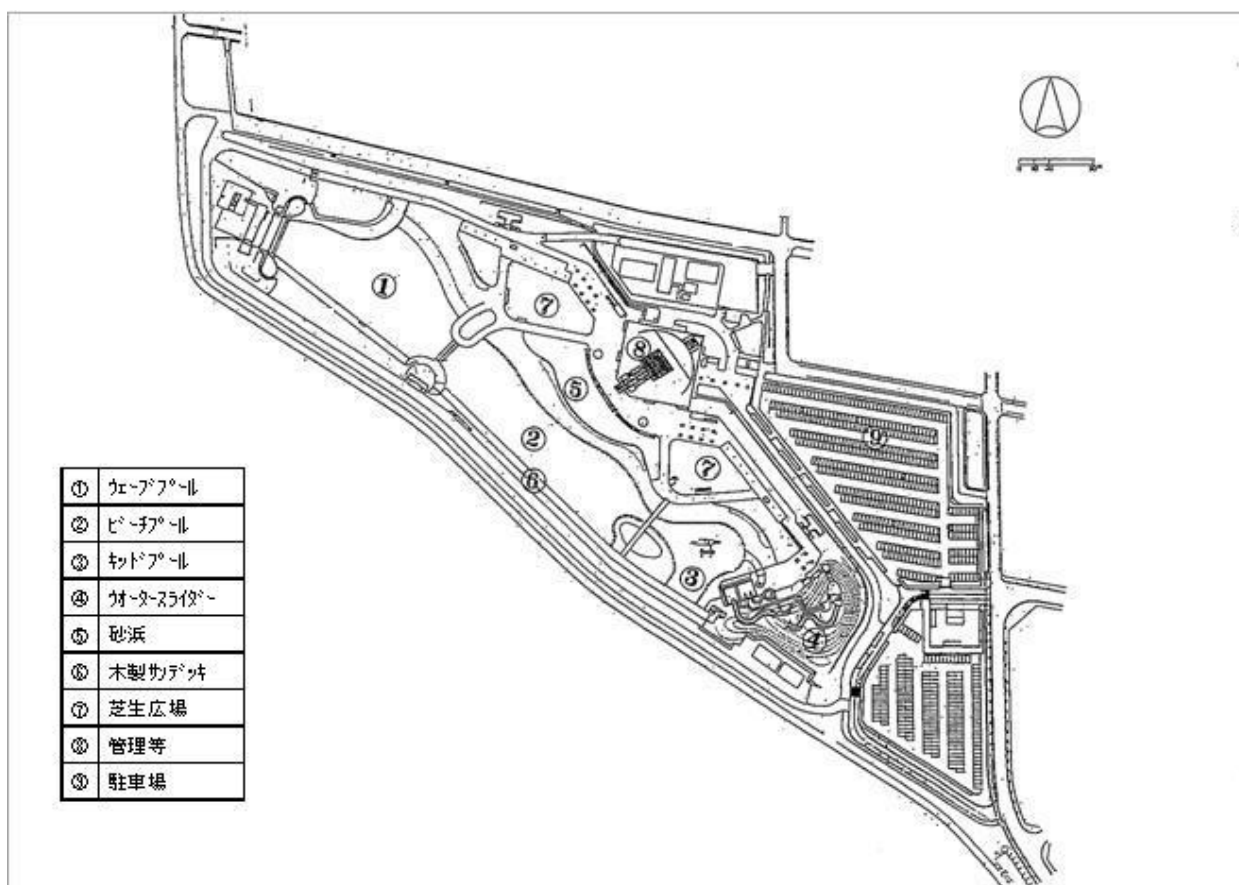
- 広域的な誘致圏を持つ特色ある大規模な親水レジャー公園とする。
- 日光川の雄大な河口風景を取り込み、一体感のある優れた景観を持つ公園とする。
- 近接の民間レジャープールとの競合を避け、公園施設は長く安定感のあるものとするとともに娯楽的な流行施設は最小限に止める。
- 都市公園として、四季の変化や利用に応える施設整備を図る。
- 公園の明確なイメージづけを図るため、植栽を始め統一感のある景観を創出する。

4) 整備のポイント

- 全体面積 10.5ha を、プール施設を中心とした有料区域（約 6ha）とその他の駐車場や管理便益施設区域を緩衝緑地帯で区分した。
- 日光川の水面を直接望めるように浜側の地盤を高くし、管理施設を低い地盤に設定してプール利用者の視界に入らないようにした。
- 各プールの水面積の合計は、約 16,000 m²で日本最大級とした。
- 日光川堤防沿いのプールサイドにはサンデッキ（一部木製）を 300m以上設置した。
- プール区域内の景観とその他の区域の景観とは明確な区別をつけるため、緩衝植栽帯を設け、プール区域内はヤシなどの南方系植物を中心に別世界の景観をつくりだした。
- 公園敷地が都市廃棄物で埋め立てられたところで地盤が良くないことから、プール本体の構造を決定するにあたり、各種の材料を比較した結果、メンテナンス上、やや費用がかかるが耐久性、施工性、補修などの点で鋼製を採用した。（厚さは 6mm）

1-5.施設状況

(1) 施設概要



日光川公園平面図

【施設概要】

ウェーブプール(波が起きる)、ビーチプール(ゆったり泳げる一般向)、キッドプール(アスレチック風の帆船遊具があり幼児用)、ウォータースライダー(90メートル級3本)、砂浜(オーストラリア産白砂)、木製サンデッキ、芝生広場、レストラン、売店、管理棟、駐車場

■プール施設

敷地面積：約 105,000 m²

プール施設	①ウェーブプール	水面積	6,700 m ²
	②ビーチプール	水面積	6,500 m ²
	③キッドプール	水面積	2,100 m ²

ウォータースライダー

①鉄筋コンクリート製樹脂吹付(擬岩風・2人乗りチューブで滑降)1本

②ガラス繊維強化プラスチック製(FRP・1人乗り) 2本

③着水プール 水面積 235 m²

(上記90m級3本は、約10mの築山から滑り降りる構造)

水面積 15,535 m²

プールサイド ①人工砂浜 3,000 m² (オーストラリア産)

②芝生 4,175 m²

③サンデッキ 4,600 m² (うち、木製1,600 m²)

■管理施設ほか

管理棟(RC造2階建)

建築面積 1,094.17 m²、延床面積 3,058.87 m²

ロッカー 男女各2,000個(同時遊泳7,000人に対応)

駐車場(650台収容)、 便所 (4か所)

他に、夏季限定の臨時駐車場あり。

(2) 利用時間および料金

【プール】

利用期間：7月6日(土)～9月1日(日)、9月7日(土)～9月8日(日) [平成25年度実績]

利用時間：午前9時から午後6時まで [平成25年度実績]

(ただし、9月7日から9月8日までは、午前10時から午後5時30分まで)

料金	区分	個人	団体 (30人以上)	団体 (100人以上)	回数券 (11枚つづり)
	大人	1,500円	1,350円	1,200円	15,000円
	高齢者	500円	450円	400円	5,000円
	小中学生	700円	630円	560円	7,000円

※乳幼児・身体障害者手帳等の交付を受けている方は無料

※高齢者とは、市内在住65歳以上の方

【駐車場】

駐車場名	面積	収容台数	供用期間	供用時間	料金
駐車場	約11000㎡	大型 駐車可 普通 643台 身障者 7台 自二 70台	プールの開業日 に準ずる期間	9:30～18:00 プール開業 時間により 変更あり	1台1回 大型車 2,000円 普通車 500円 自二・原付 300円

(3) 景観

エントランスからプールの全景が見渡せ、プールの向こうに日光川の水面が見え、広々とした空間に砂浜やヤシの木のある海の雰囲気に近い景観が魅力である。広い水面の日光川と対岸の背後に鈴鹿山脈や養老山地の山々が望める良景観をなしている。また、野鳥が多く見られる。

1-6.利用状況

(1)プール施設の利用

【利用実績】 平成 24 年度利用者数

(単位：人)

月	供用日数	有料利用者数	無料利用者数	利用者数
7 月	25 日	23, 251	8, 093	31, 344
8 月	31 日	68, 541	21, 407	89, 948
9 月	4 日	7, 532	3, 088	10, 620
合計	60 日	99, 324	32, 588	131, 912
				(内訳)
				大人 67, 539
				小人 64, 373

【最近の利用者数】

(単位：人)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
人数	126, 895	112, 588	104, 907	126, 785	111, 805	131, 912

(2)プール営業期間中の取り組み [平成 25 年度実績]

プール営業期間中のにぎわいの創出、来園者の増加のための取り組みとして、ビンゴゲーム、宝探し、ハイビスカスの持ち帰りデー等のイベントを実施している。また、海の家雰囲気をつくるために、芝生広場(3 か所中 2 か所)やレストラン外側等で屋台を充実させている。

催事名	内容	開催頻度
ビンゴゲーム	施設の受付でビンゴガードを配布(500 枚程度)し、抽選会を行う。 当選賞品は地元企業等から提供を受ける。	7～8 月に 合計 約 12 回
宝探し	砂浜に埋めた宝物(カプセル)を探し当てるイベント	
ハイビスカスの 持ち帰りデー	プールサイドのプランターのハイビスカスを利用者に持ち帰ってもらうイベント	シーズン 最終日
その他 スイカ割りゲーム	子供たちに参加を募る余興イベント	7～8 月に 計 2 回

(3) 休園期間中の利用

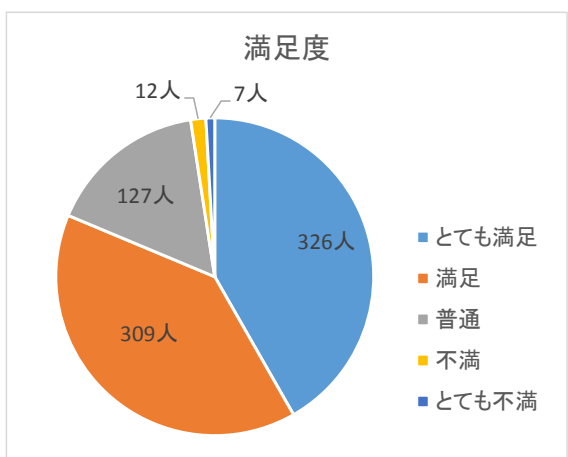
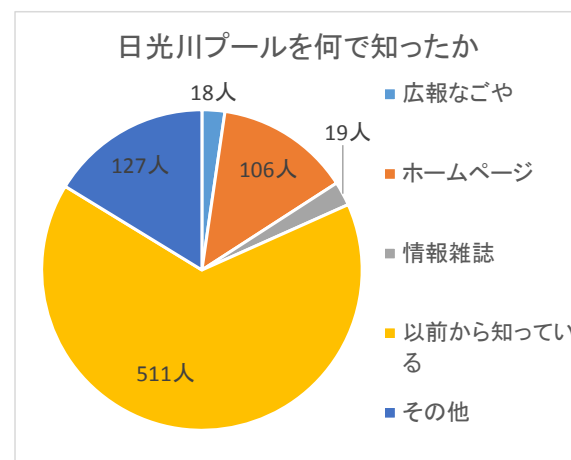
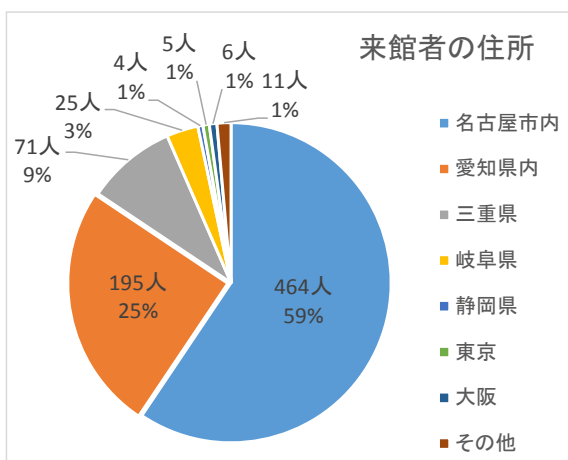
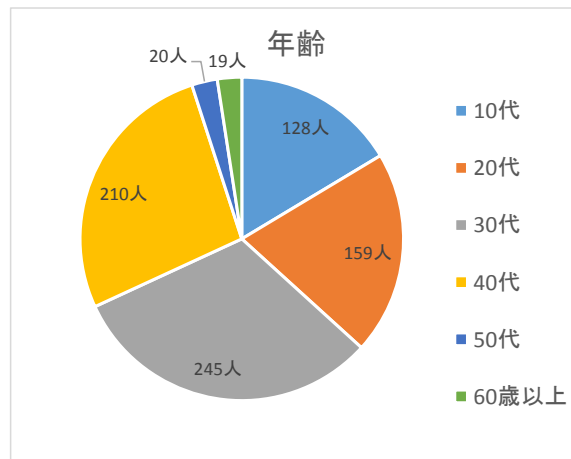
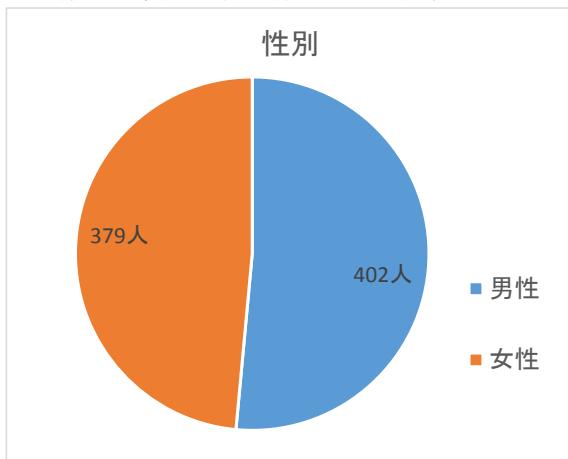
- ・ 休園期間は、水面や駐車場を活用している。
- ・ 水面は日本キャストイング協会の練習場として利用され、定着してきている。

催事名	内容	開催頻度 利用者数 見込み
港消防署の操法大会 運転訓練	プールホース等の器具の操作訓練 駐車場での救急車両の運転訓練	年1回程度 年3回程度
キャストイング大会	投げ釣り技術を競う競技の大会 主催：日本キャストイング協会	年2～4回 1回あたり 200～300人
キャストイングの練習場 インストラクター養成試験	日本キャストイング協会会員の練習場として開放 試験会場	10～4月 年間 のべ600名
ドッグショー	駐車場を活用したドッグショー 主催：社団法人日本ケネルクラブ	隔年1回 600名
ラジコン大会	駐車場を活用したラジコンカーのレース 主催：(株)タミヤ、県内ラジコンショップ	年8回程度 1回あたり 100～300名
バイクのイベント・講習会	駐車場を活用したバイクメーカーのイベント・講習会	不定期

(4)利用者アンケート結果

年間 700 件以上を目標に、プール利用者に救護室等で用紙に記入してもらう形式でアンケート調査を行っている。

【平成 25 年度の調査結果】（回答者 781 人）



〈記述回答〉

◇施設に関する意見

- ・ シャワー室の数が少ない。
- ・ 園内のベンチが少ないので増やしてほしい。
- ・ 日陰が少ない。
- ・ ハチ、クモが多いと感じる。

◇運営に関する意見

- ・ 有線で音楽を流してほしい。
- ・ 波のプールの波をもっと高くしてほしい。
- ・ 波のプールの波が出る時間を増やしてほしい。
- ・ 満足したが、ファミリーパックがあればもっと利用できる。
- ・ 販売している食事の値段が高い。
- ・ 自販機が河川敷側にもほしい。
- ・ タバコの自販機がほしい。

◇苦情

- ・ 刺青、タトゥーを入れた人が多くて怖いので行政に禁止してほしい。

(5)利用・運営上の課題

- ・ 繁忙期は駐車場が不足するため、臨時バスの増発を要請するなど、対策が必要。
- ・ 利便性を高めるための団体契約やクーポン等の検討が必要。
- ・ 当施設は、刺青を入れた人の入場を制限していないが、周辺の同種の民間施設が入場を制限しているため、当施設に多く来場され、他の利用者からの苦情が出ている。（現在はラッシュガード着用の協力要請をすることで対応している。）

(6) 協働

■ 連携

近隣企業や住民団体と連携して施設の魅力増進、イベント開催等を積極的に行っている。

連携している主な振興団体・ボランティア団体

連携団体	団体概要	実施するイベント例
JCA（日本キャスティング協会）	キャスティング（投げ釣り技術を競う競技）の普及活動や大会を主催する団体	オフシーズンの大会、JCA 会員の練習場の提供
社団法人日本ケンネルクラブ	愛犬精神の普及団体、血統書の発行や全国で年間 300 回以上のドッグショー開催	オフシーズンのドッグショー
戸田川みどりの夢くらぶ	平成 15 年発足の市民ボランティア団体。植樹や子供参画のイベントを実施	日光川に生息する魚の展示
愛知県創造リクリエーション研究会	伝統工芸の普及活動を行う団体。地域交流センターなどで教室を開催	リサイクルイベント（ペットボトル工作など）
財団法人中部盲導犬協会	中部地方の盲導犬の普及団体	オフシーズンの盲導犬イベント
NPO 藤前干潟を守る会	藤前干潟の保護活動を行う NPO 団体	地域清掃イベント

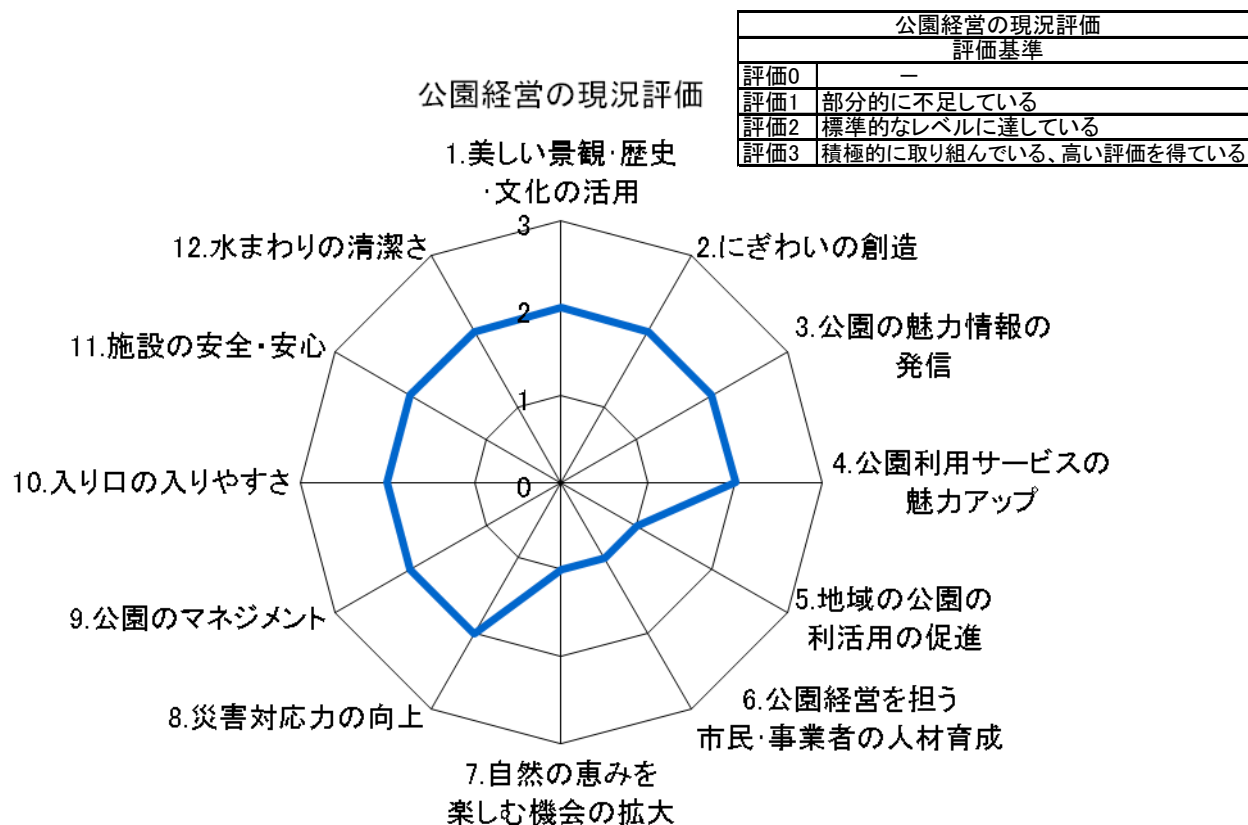
1-7.公園の基本的な性格・役割

(1)特長の分析

分析ポイント

歴史・文化	なし。
景観	日光川の河口を望む開放的なロケーションと野鳥が見られる環境。
にぎわい	芝生広場でのプール開園中の各種イベント、駐車場や水面の利用
地域の庭	芝生広場
自然の恵み	日光川、野鳥
遊具	プール施設、芝生広場の遊具
スポーツ施設	ウエーブプール、ビーチプール、キッドプールの3種類のプール、ウォータースライダーが3基ある親水レジャープールである。
災害対応力	広域避難場所に指定されている。
活動団体	複数の活動団体が活動しているが、頻度は低い。
民間活力導入状況	自販機の設置

(2) 公園経営の視点から見た現況評価



- ・ プール開園期間の利用、かつ週末利用が中心となっている。
- ・ 全域が指定管理区域となっている。
- ・ エントランスから一望できる海の雰囲気のあるプールの全景とプール越しに見られる日光川の水面と野鳥等の自然の景観が特徴的である。
- ・ 親水レジャー施設としてのシーズン中の集客力、都市公園（公共施設）であることによる間口の広さ等の特長に加え、オフシーズンの駐車場やプール水面のオープンスペース利活用のポテンシャルも高い。

2.めざすべき姿と取り組みの方針

2-1.公園がめざすべき姿

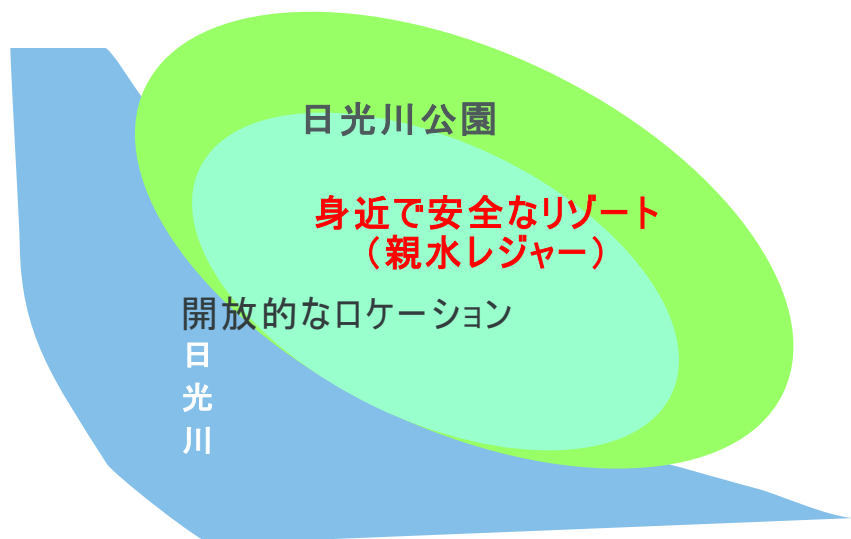
(1)めざす公園像

身近で安全なリゾート施設として、誰もが気軽に利用できる公園

- ・ 誰もが安心して、余暇を楽しめる公園
- ・ プール開園中は、多くの来園者が楽しむことにより大きな「にぎわい」が生まれる公園
- ・ 催事での利活用や、協賛、アイデア・提案により利活用に参画できる公園

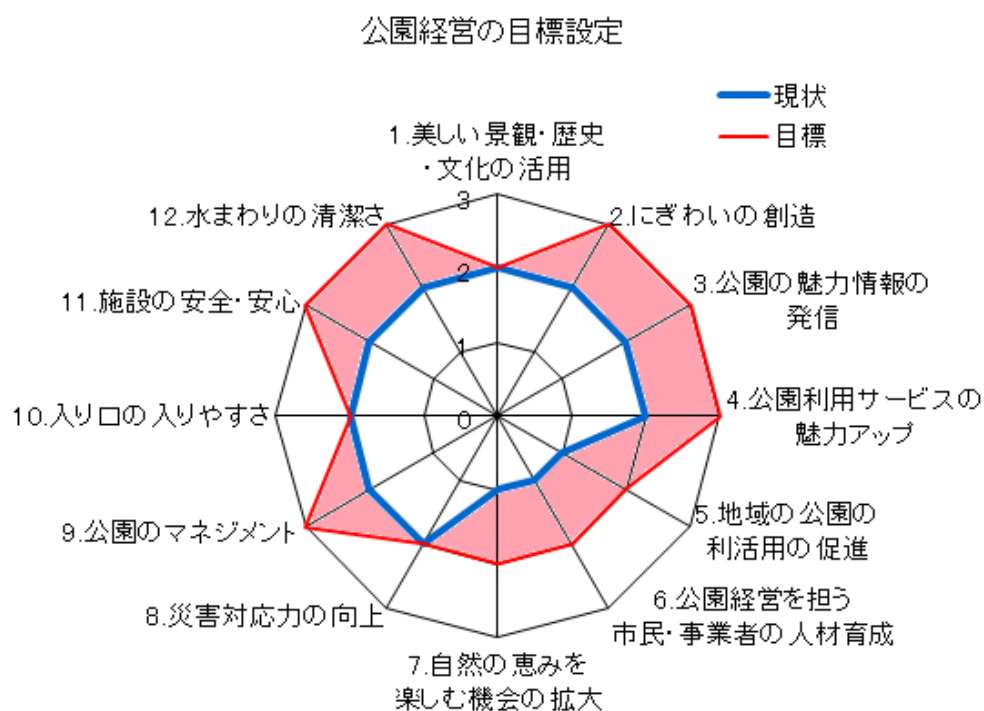
(2)日光川公園のイメージ

日光川の河口に面した開放的なロケーションを活かし、市民にとって身近で安全なリゾート施設として親しまれる公園。



2-2.取り組みの方針

(1)公園経営の目標設定



めざす公園像に取り組むための方針に沿って公園経営の目標を設定し、日光川公園がプール公園として存続している期間に重点的に取り組む項目は、下表のとおりである。

めざす公園像の ための取り組み項目 めざす公園像の ための取り組み方針	景観 形成		運営 管理				連携 協働			維持 管理		
	1	10	2	3	7	9	4	5	6	8	11	12
誰もが安心して、余暇を楽しめる公園						○						
プール開園中は、多くの来園者が楽しむことにより大きな「にぎわい」が生まれる公園			○	○							○	○
催事での利活用や、協賛、アイデア・提案により利活用に参画できる公園			○	○					○			

公園プールは、開業が夏期に限定された施設であり、開業期間中は、利用者の安全対策を第一に、誰もが気軽に利用できるような運営を行う。

また、指定管理者制度のメリットを活かし、公園経営的視点に立った公園の管理運営を実施し、創意工夫のある企画や質の高いサービスを公園利用者に提供して、利用者の満足できるような管理運営を行う。

(2) シーズン別利用特性

【シーズン中（プール施設）】

- ・ 屋外プールと多彩な飲食サービスが一体的に利用できる市民の憩いの場をめざす。
- ・ リゾート施設として、非日常的な休日を過ごせる空間を演出する。

【オフシーズン（駐車場・水面）】

- ・ 静かで車止めのない大きな駐車場スペースや水を入れたままの大きなプール槽があるという潜在的な魅力の活用を図る。
- ・ 地域の団体や住民団体の「低コストで催事を開催する場所の確保」というニーズを掘り起こし、これらの活動を支援することで、市民の交流の場として利活用を図る。
- ・ 防災訓練を実施し、オフシーズンの施設の利活用を図るとともに、災害時に備える。

(3) 維持管理の方針

施設や設備は、利用者が快適かつ安全に利用できるよう、各種施設の機能、特性を十分に把握したうえで、すべての施設を清潔に保ち、かつその機能を正常に保持するため、各施設に応じた維持管理および保守点検を行う。

大規模修繕が必要となるまでは、施設や設備は、その機能と特性を十分に把握したうえで、すべての施設を清潔に保ち、かつ、その機能を正常に保持する。

エレベータやプール等の利用者の安全に関わる設備は、法定点検を確実に実施する。

(4) 景観形成の方針

「白い砂浜の美しい海岸風景と健康的な日光の燦々と降り注ぐ巨大プール施設の創出」という整備時のテーマを尊重した景観管理を行う。

(5) 運営管理の方針

■ 安全・衛生面への配慮

- ・ 水難事故の防止と利用者の安全対策を第一に運営する。
- ・ プール条例を遵守する。
- ・ 利用者が快適に利用できるよう、水質管理、場内の清掃の他、営業時間内のこまめな清掃により美観を保つ。
- ・ 様々な利用者ニーズに対応した親切な対応を心がけ、サイン等案内の充実を図る。

■ 効率的な運営

- ・ 水質基準を保持しつつ、光熱水費の節減に努める。
- ・ 催事を実施することで、利用者の滞在中の楽しみを増し、シーズン中のリピートを促すような掲示等の工夫を行う。
- ・ 土日と平日の利用者数の差が大きく、土日は駐車場が不足するため、利用者の滞在時間を分散する仕組みを検討し、利用者の満足度の向上と近隣の渋滞緩和に寄与する。

■ オフシーズンの利活用の検討

- ・ オフシーズンのプールや駐車場の利活用を図る。

(6) 連携・協働の方針

- ・ 地域の消防機関に協力し、公園で防災訓練を実施することによりオフシーズンの施設の利活用に取り組むと同時に、災害時に備える。

(7) 改修・再整備の方針

- ・ 公園の安全・魅力向上のために必要な場合は、改修を行う。
- ・ これまでの運営データをもとに機械設備の点検・修繕等を行う。

(8) 災害対応の方針

「名古屋市地域防災計画」「震災に強いまちづくり方針～名古屋市防災都市づくり計画～」に基づき、広域避難場所としての機能を確保する。

プール開業期間における火災、地震、風水害等の防災・災害対応マニュアルをあらかじめ作成し、発災時には、利用者の安全確保・避難誘導に努める。